

## お父さんの手

千両小・3 大井 たすく

ぼくのお父さんの手は、まっくろくろすけみたいです。つめまでまっ黒です。きずもたくさんあります。石けんであらっても、ぜんぜんとれません。お風呂に入っても、ちよつとしかきれいになりません。ぼくが小さいときに、お風呂でお父さんがぼくの頭をあらおうとしたら、

「父ちゃんの手は黒いからいやだ。」

と言ったそうです。ぼくは、おぼえていないけど、お父さんは、ちよつとかなしくなったかなあと思いました。

ある日、学校の日記で、家ぞくのことをテーマのしゅくだいがありました。ぼくは、だれのことを書こうかとまよっていました。はじめは、お母さんのことを書こうと思っただけど、お母さんが、

「お父さんはどう。」

と聞いてきたので、まよいました。お父さんは、いつもしごとがいそがしくて、あまり家にいないので、何を書いていいかわからなかったからです。そうしたらお母さんが、

「わからないなら、お父さんにしつもんしてみたら。」

と言いました。なるほどと思って、お父さんのことをいっばい考えました。

お父さんは、にわしのしごとをしています。ぼくは、木を切るしごとだと思っていました。お父さんに聞いたら、木を切るだけじゃ

なくて、しばを直したり、はったり、まつの木をととのえたり、いろんなことをするしごとだとわかりました。まつの木は、手でいねいに手入れをするので、まつやにというのが手について、黒くなるそうです。お父さんの手のよごれは、これだったんだとわかりました。しごとの大へんなところは、あつい夏も、さむい冬も、外でしごとをするところです。楽しいところは、いろんなきせつをかんじることができたり、きれいになったおにわを、おきやくさんがよろこんでくれるところだそうです。お父さんにしつもんしてみたら、お父さんのことを少し知ることができたので、うれしかったです。もつと知りたいと思いました。

夏休みの少し前に、近じよのおうちのにわで仕事をしていることを聞いて、お母さんが、お父さんのげん場につれて行ってくれました。お父さんは、せん風がついているふくをきていました。風でふくらんでいるので「ムキムキスーツ」とよんでいます。ぼうしもかぶっていたけど、あせだくで、とてもあつそうでした。大きなはさみをもって、ぼさぼさの木をどんどんどんどん切っていくます。きや立にのぼって高いところもすいすい切って、あつという間にきれいにそろえていました。長い電どうのこぎりや、はっぱをとばすきかいなど、いろんな道具もつかっていました。ぼくは、十五分ぐらい見ていただけでつかれちゃったけど、お父さんは毎日のはたらいていて、すごいなあと思いました。ぼくもちよつとにわしのしごとがすきになりました。

お父さんは、あつくてはだもまっ黒だし、日やけでいたそうです。体もつかれているから、たまにはゆつくり休んでほしいです。ぼくがマッサージをしてあげます。ぼくのしょう来のゆめは、まだきま

つてないけど、もつとすずしくなる「ムキムキスーツ」をはつ明する人になるのかな。

今日も、お父さんの手は、黒くてよごれています。きずもたくさんあります。でもその手は、だれよりもかっこいいです。ごつごつの手は、がんばっているしょうこです。ぼくもお父さんみたいになんばりたいです。